

田畑と山に

子どもの声がこだまする

世代や地域を超えて

持ちつ持たれつ支えあう

小さくても輝くまち下山

① 将来ビジョン作成の背景

下山学区では、人口減少や高齢化、若者の流出が進み、農業や地域活動の担い手不足が深刻になっています。

また、平成31年3月には学区内唯一の商店であったAコープが閉店、令和5年度からは保育園一時休園するなど、集落機能の弱体化も大きな課題です。

そこで、今後学区住民が主体となって、行政や事業者、様々な機関、団体等と連携し、持続可能な地域づくりに向けて一丸となって取組んでいくために、「地域の将来ビジョン」と、テーマごとに定めた具体的な取組の指針を定めます。

1 方向性

下山学区には、きれいな源流の水から育まれるお米やお酒、緑豊かな自然環境、そしてあたたかく優しい地域のつながりがあります。

そんな地域の特色を活かし、農業体験やおいしく安全な食の提供、山歩き・ウォーキングなど、地域の中の人も外の人も楽しく集い交流できる機会を増やしていきます。

そうした交流を通じて、下山が好きな人たちが増え、下山に関わる人が増え、世代や地域の枠を超え、持ちつ持たれつ支えあう地域づくりを目指します。

いつまでも、田畑と山に子どもたちの声がこだまする下山でありますように。

2 取組のステップ

令和4年度

体制と活動の骨格づくり

- ・地域将来ビジョンの策定
- ・部会の組成
- ・行動計画の検討

現在

令和5年度

各種活動の試験的实施

- ・農業体験の試験的实施
- ・移動支援の試験的实施
- ・旧J A下山支店の改修と活用
- ・地域資源の発掘と発信

令和6年度

主要事業の改善拡張

- ・実証実験の検証および改善を通じて関係人口拡充
- ・農村RMO設立に向けた準備（体制・事業計画の検討）

令和7年度以降

農村RMO設立と主要事業実施体制の確立へ

3 今後の方針（案）

岡崎市下山学区地域づくり協議会では、「1. 農用地保全部会」「2. 生活支援部会」「3. 施設運営部会」「4. 地域資源活用部会」の四つの部会が中心となって、持続可能な地域に向けた取組を行っています。

1 農用地保全部会「遊休資産の有効活用ほか」

① 遊休農地を活用した農業体験プログラムの実施

小学生ファミリーを主な対象として一年を通して稲作体験プログラムを実施。休耕田や空き家などを農用地保全や地域づくりの担い手の受け皿として有効活用していきます。

② 6次産業化に向けた農作物の栽培・加工の検討

ヨモギ、漆、楮等、6次産業化を見据えた農作物の栽培・加工を検討し、遊休農地の活用方法を模索します。

③ デジタル技術等の導入検討

圃場の遠隔監視等、農業の負担軽減や地域外住民による圃場管理に資するデジタル技術の導入を検討します。



3 施設運営部会「関係人口の創出ほか」

① 旧JA下山支店を活用した農作物直売の実証試験

学区内で収穫された農作物を集荷／直接持参してもらい、拠点施設で販売します。

② ヨモギ等農作物の加工・活用法の検討

遊休農地で栽培するヨモギを「よもぎ蒸しサロン」で試験的に活用する等、農作物の加工・活用法の検討を行います。

③ 旧JA下山支店を活用した関係人口創出拠点の試験的整備・運用

旧JA下山支店を、子どもや学生・高齢者の居場所および特産品の販売や飲食もできる休憩・案内所として改修し、地域内外の交流拠点として活用します。



2 生活支援部会「移住の仕組み検討ほか」

① 通学や通院、買い物を手助けする移動支援の試験的实施

地元有志による「おたのみ隊」を中心に、岡崎市社会福祉協議会やダイハツ（軽ワゴン提供）等と連携し、移動支援の仕組みづくりを進めます。

② 生活たのみ隊の運用

電球交換や掃除の手伝いなど、地域の生活の困りごと解消をサポートする有償ボランティア「生活たのみ隊」の存在を広く周知し、住み続けられる地域づくりの実現を図ります。



4 地域資源活用部会「地域プロモーションほか」

下山ならではの魅力を発掘し共有する

まち歩きプログラムの実施

地元の人が知る下山の魅力と、地域外の人だから気づく下山の魅力を掘り起こし、共有するまち歩きを行い、下山の魅力を伝える情報発信の方法と体制づくりを進めます。

